

【地域版】公共施設タウンミーティング 会議録

日時	平成 30 年 6 月 23 日（土）14 時 30 分～17 時
開催場所	広野市民センター 多目的ホール
対象地域	広野
参加者	13 人
市出席者	森市長、椋田技監、赤松理事、東野経営管理部長、江田危機管理担当次長、西田行政管理室長、山添市民協働室長、川田市民文化室長、奥こども室長、久高都市政策室長、古川地域整備室長、外岡学校教育部長
事務局出席者	西垣戸財務室長 公共施設マネジメント推進課：甲斐課長、木戸課長補佐、酒井係長、迫田主任、末田協働推進課：近江地域担当課長（広野担当）
議題	(1) 三田市の公共施設の現状・基本方針(案)の説明 <ul style="list-style-type: none"> ・「三田市の公共施設をとりまく現状」の説明 [木戸課長補佐] ・「三田市公共施設マネジメント推進に向けた基本方針(案)」の説明 [椋田技監] (2) 意見交換 [意見交換シートを活用]

会議の概要

司会	<p>1. 開会</p> <p>2. 市長挨拶</p> <p>3. 現状・基本方針(案)の説明</p> <p>4. 意見交換</p> <p>事務局の方から人口減少等が見込まれることから、公共施設のボリュームを 30 年後には 12%減少させたいという目標の報告がありましたが、この内容についてご意見やアイデアがありましたらお伺いします。</p>
参加者	12%がどのくらいの面積になるのか想像できません。
司会	12%ですと大体 43,000 ㎡になります。
参加者	具体的にどこの施設がなくなったらということでしょうか。
市	本日は意見交換の対象となっていませんが、学校等もあわせた中で、人口規模からみて 12%程度減らしていきたいと思っております。
司会	<p>案で廃止売却となっている 8 つの施設面積を合計すると 6,300 ㎡です。また、公共施設をとりまく現状のところでも説明させていただきましたが、学校教育施設の割合が延床面積で約半分を占めており、比率としては大きいです。</p> <p>では、この広野地域にあります公共施設についてのご意見を 2 件いただいております。</p> <p>まず淡路風車の丘について「地場産レストランでの使用は是非実現させてほしい。人気の洋菓子店に位置的に近いという利点もある。三田に買い物に来た人たちに三田をもっと見てもらう、知ってもらおう仕掛けになると思う。」という期待をいただいているご意見です。このご意見について他の方でご意見はありませんか。</p>
参加者	淡路風車の丘のできた経緯について説明をお願いします。

市	淡路開拓のため池があり、武庫川からポンプアップして農業用水として利用しております。その関係で農業施設として最初整備されたものです。
参加者	親水公園として整備をしたのですが、公園だけでは物足りなく、話題性がないということで、カヌーはどうだろうかということでスタートしました。建設にあたり、もっとスポーツ性をということでカヌーポロという競技を考えました。これは日本に3か所しかありません。実際できあがった時点では、カヌーポロコートだけができ、カヌーはありませんでした。市からの要請でカヌー協会も設立しました。その後大規模修理が必要になった際、市の予算がとれないということでカヌーポロコートもなくなり、利用者が減少していきました。もともとの発端としては、市民のスポーツを広げていこうという趣旨でつくられたものです。
司会	市では、地場産レストランへという方向性を案の中で示しておりますが、カヌーポロコートについてのご意見ということでよろしいですか。
参加者	なぜできたのかという説明の補足としてさせていただきました。
参加者	甲板でコーヒーが飲めるようになっていますが、現状は何に使われていますか。
市	現状はため池の利用以外に、建物の中で喫茶店や、週に一度地場産野菜の販売コーナーも設けております。あとノルディックウォーキングとかガーデニング教室やトールペイントなどの講座を実施しております。
参加者	夏場は市民に対してカヌー教室も行っております。
参加者	淡路風車の丘のソフト面で協力してほしいということで、今年から認知してもらえるようなイベントを考えています。例えば三田の食産を使ったお弁当コンテストを秋にやろうと考えています。淡路風車の丘自体が地場産レストランへと移行されるというのは、そのほうがいいと思います。三田にはこんなに良い所があるのに、受け皿として受け入れられなかったのは、致し方ないと感じました。施設として、三田のPRをこれからどう考えていくかが必要なのだと感じております。いろんな提案もっているのですが、私が係わっている間はやっていきたいと思います。
参加者	項目の個別施設の方向性の欄に、地域イニシアチブによる公共施設の活用の対象とし必ずしも地場産レストランとして活用しない、とありますが、例えばカヌーとかイベントで集客をしてその施設が活性化していけば、レストランに転用するのではなく、今の形状で維持されるのか、仮に地域イニシアチブの可能性があるのであれば施設の維持費用の負担はどこが行うのか、費用に関しては1万人と500円という線引きがされるのでしょうか。
市	地域イニシアチブの対象となるというのは、市として公共施設としてはもちませんということです。廃止して売却する手続きの対象になったとき、単に民間に入札で売却するのではなく、地域のまちづくり協議会や自治会など、公的な団体が地域の活性化の為にこうしたいという提案があった場合、その団体に売却するのか、それとも市が土地を持っていて定期借地みたいな形で建物をその団体に譲るのか、そのあたりの制度設計を今考えており、まだ案としてできていません。それについては12月を目途に一定の案は決めていきたいと考えております。基本としては、公的な団体から地域のためにこうしたいという提案があって、それと市が考えている地場産レストランとで、どちらが市にとって良いのかという判断をさせてもらいたいと考えております。

参加者	<p>地場産レストランの検討ということは、基本的に売却になる可能性が高いということでしょうか。地場産レストランをする場合、借地権を使ったような提案の仕方もできるのではないのでしょうか。</p>
市	<p>地場産レストランにつきまして、公共施設でというふうな持ち方はしません。結局、公設民営レストランとなるとどこも成功しておりません。自分の建物であるとかリスクを負っているなど、覚悟や気構えをもったうえでないと、うまくいきません。今は市として所有権を持たないという考えです。</p>
司会	<p>青野ダム記念館についてのご意見をいただいております。 「機能、収支、避難所、防犯上の存在、青野ダムについての管理はどうなっているのかと、青野ダム記念館の当初の設立目的についても質問があります。県との連携、現在湖やダムは県所有なのか市所有なのか、機能から考えて文化、スポーツ、レクリエーション施設になるのでしょうか。」という質問です。</p>
市	<p>青野ダム記念館の機能は、会議室の利用と、ダムを見学に来られた方の休憩の場として利用していただいております。収支につきましては、収入がございません。支出は年間 400 万程かかっています。当初の設立目的は、青野ダムの建設を記念したダム周辺地域の埋蔵文化財、ダム建設に関する資料等を収集展示しており、あくまでも文化施設ということで設置しております。</p>
市	<p>市では小中学校を中心に、市民センター等が避難所として指定されており、広野地区につきましては、広野小学校、広野市民センター、青野ダム記念館を避難所に指定しております。広野地区においては想定避難者数 271 名、帰宅困難者 353 名、計 624 名を受け入れる必要があります。青野ダム記念館につきましては 200 名程度の収容能力、青野ダム記念館を除いた広野市民センター、広野小学校のキャパシティとして最大で 1179 名の収容能力があるということから、十分キャパとしては足りていると考えています。 なお、青野ダムの管理は県がしており、建物は市です。</p>
参加者	<p>当初、文化、スポーツ、レクリエーション施設の位置付けでありましたが、現在青野ダム記念館は地域にとっては、防災・防犯面で非常に貴重な施設です。たくさんの避難者を受け入れるキャパがあると言っておられましたが、距離はどうでしょうか。青野の奥からここまで何キロあるか、みなさんご存じだと思います。もし大地震、洪水が発生したとき、何十キロの距離があります。青野ダム記念館以外に避難所を作れるか…。ないのではないのでしょうか。 夏場は非常に治安が乱れます。記念館があるために治安が守られている部分もあり、防犯の最重要点です。子供が巻き込まれたらどうされますか。 広野の住人には、防犯、防災、避難所と重要な施設です。青野に住んでいる人にとってあそこは生命線であり、特に高齢化も進んでいます。逃げられる場所をどこか考えていただけるといいのでしょうか。 県の管理であれば県に取り込んでもらったらいいでしょうし、青野ダム全体を管理するという事で県の施設として取り込んでもらい、避難所として活用したらいいのではないのでしょうか。</p>
市	<p>距離の問題についてはあろうかと思えます。避難所の指定地はできるだけ公共施設を使用する方向で行っております。 では廃止売却となってしまった時、どんな方法が考えられるのかというと、平成 30 年度に広野地区は土砂災害の特別警戒区域の調査が予定されています。自治会の集会所等が避難に適していないとなっていますが、安全性がはっきりしてくる中で、地</p>

区の集会所を地域の避難所として使わせていただけることも一緒に考えさせていただけたらと思います。記念館自体も、南北に広い広野地区では南の方にあります。広野北部地区は、どこか近くの公民館を貸していただいて設置するという方法もあるのではと考えています。広野北部地域の避難対策は、この際一緒に考えていくような機会をもたせていただければと考えています。

参加者

一時避難所の公民館を、市民センターや小学校と同じレベルの扱いにするということでしょうか。

市

もちろん同意をいただかないとできません。そこが良いのかどうか地区のみなさんの意見も分かれるところだと思います。そのあたりも含めて広野地区北部の避難対策ということで提案させていただきました。

参加者

公民館と、小学校、市民センターでは、それぞれレベルが違います。それなら青野方面に広野小学校や広野市民センターと同レベルの施設を作るというのが普通です。各地区の公民館を借りてそこでしょうというのはおかしいのではないのでしょうか。

まして青野ダム記念館は地域にとって重要な位置を占めています。レクリエーション施設だという考えでレストランにしようかというのは、住民にとったら迷惑で、住民のことを思うのであれば、公共施設としてどう維持していくかを考えてほしいです。

市

いろんな意見があるので各地域でタウンミーティングをやっています。今回ご意見いただいたものについては、貴重なご意見として整理させていただきます。

参加者

厳しい財政状況の中で、しっかりと計画をたてて断行されるというのは、市民にとって感謝するべきだと思います。

青野ダム記念館ができた経緯をしっかりと残していただきたい。青野ダムというのは三田市のニュータウン開発にとって必要不可欠であり、青野ダムが完成しなければニュータウン開発ができませんでした。生まれ育った家、先祖代々の田畑を売り払ってまで立ち退かなければいけなかった住民の心情、これはしっかりと残していただきたい。だんだんと青野ダムの経緯を知る人が少なくなっている中で、もっといろんな情報・資料を集めて、残していただきたいです。

市

今のご指摘、十分認識しました。今ここでどういうふうにするかはお答えすることはできませんが、先程のご意見も含めまして、こういった意見を聞くのがタウンミーティングという機会です。

参加者

いろんな意見を真摯に受け止め、地場産レストランや防災施設の話も含めて、最終的には、第三セクターで成功したところはないと分かっているのであれば、民間に頼らざるを得ない。経費の削減が必要かもしれませんが、指定管理も行政で面倒みきれないから民間委託して面倒みてもらう。では今度は指定管理のお金ももったいないから廃止しようでは安易すぎると思います。地元住民の思いもありますし、いろんな絡みの中でようやくできあがった青野ダムが三田市の発展の為に歴史的に残っていくような、そんな施設も残していただきたいです。他に何に使っていただいても結構ですが、少なくとも施設は初期の目的通り残していただく、一画でも結構ですので、全てを無くすというのはいかがなものかだと思います。

参加者

色々な意見があるのはわかりますが、この施設の1人当たり負担額が6,830円というのは、全市民で負担しているという点で突出しているという印象はあります。

司会

最後のまとめとして市長より一言お願いします。

市長

公共施設マネジメント全般については、目標値として12%の数字を出しています。一番大きいのは学校関係で、教育委員会が整理して8月頃に具体案を出して、地域を回ります。学校の問題についてはまちづくりの問題になるので、非常に興味を持っておりますが、これについてはまた別の機会で見聞交換を教育委員会としたいと思っております。そういう意味では、数的に12%という問題以外に、それぞれ個々の施設が、経緯とかいろんな視点でもう一度整理しないとイケないと思っております。

淡路風車の丘、青野ダム記念館、みなさんからいただいたご意見の大きな一つは、施設にはそれぞれ経緯があり、歴史があるという点だと思います。これは、差はあるかと思いますが、いろんな施設や学校の問題でも出てくるのではないかと考えております。市として今日いただいたご意見は、再度庁内で議論させていただきます。

市役所の庁舎、公民館もそうですが、時代と共に変わってくる、変えていかなければいけないということが絶対あると思います。それと今までの施設の建て替えをどうするのかという問題です。今が大きく違うのは、かつては日本全体、特に三田は人口が伸びていた時代だったのですが、これから人口は間違いなく減っていきます。どこかで人口が減少して、使わない施設もしくは人が来ない施設になった時に、市民の方の1人当たり負担の問題をどう考えるのかということが必要だと思います。

特に青野ダムについては、先人の方々が築いてこられたということにつきましては大切ですし、庁内でも技監をトップとした本部会議において、すぐに結論はでないと思っておりますが、しっかりと考えて、危機管理の担当も含めて全体をチェックしていきたいと思っております。特に問題になっているのは、障がい者とか高齢者とかの要避難支援者の避難をどのように地域でやっていくかというときの拠点です。今日いただいたご指摘については、もう一度全般的にしっかりとチェックする機会になったと思っております。

今回地域イニシアチブという制度を作って、淡路風車の丘、青野ダム記念館も売却を前提としておりますが、地域イニシアチブで提案をいただいたら、違う形にという部分も持たせていただきました。ただ費用負担とか色々な問題については別途考えていけないといけません。まちづくり協議会や自治会など、地域としてまとまって意見を出していただく機会にしたい。それが、費用負担の問題の中で、市全体として市民の方に納得いただけるかどうかです。制度設計が出来ていない段階で中途半端な言い方をしましたが、この2つの施設は地域イニシアチブの、ある意味では先進的な事例になる可能性もあるのかと感じています。地域の中で意見をまとめていただくというのも非常に大切なことだと思っております。